

# 国際協力の現場を語る

JICA（ジャイカ：国際協力機構）は、開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア（40歳～69歳）を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違ったいろいろな体験をしてきています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日時：毎月第3水曜日 15時30分～17時

会場：JICA 横浜 1階会議室ほか

会費：無料（どなたでも自由に参加出来ます）

主催：NPO「シニアボランティア経験を活かす会」

後援：JICA 横浜

問合せ先：

横浜市中区新港2-3-1 JICA 横浜3階 国際協力連絡室内

シニアボランティア経験を活かす会 神奈川分科会

Fax:045-663-3263 担当：臼井道雄（045-891-5490）

Eメール：[jicasvob@kme.biglobe.ne.jp](mailto:jicasvob@kme.biglobe.ne.jp)



赴任国 (講師名)		「タイトル」 講演概要
第63回 11月17日 (水) パラグアイ (広内俊夫)		「パラグアイ移住70年。みんなで創る記念誌を目指して」 パラグアイは南米の桃源郷と言われている。1936年、この国に日本人が移住した事はあまり知られていないが、現在7000人の日本人・日系人が住んでいる。私は「パラグアイ移住70年史」の編纂に携わり、みんなで創る記念誌を見指した。この記念誌編纂と編纂を通して見たパラグアイについて紹介する。
第64回 12月15日 (水) フィリピン (石村真平)		「フィリピン事情と日本人の足跡」 フィリピン社会はメスチーソとローカルとの間の階級の格差が大きい。地場産業が少なく現金収入がない。しかも公務員でも安定した職場でない。集落（バラングイ）では、私物はほとんどなく共有であり子供も集落の共有物で、全員血縁である。ゴッドファーザー（ニノン）になると皆から尊敬される。
第65回 1月19日 (水) トルコ (田代靖弘)		「トルコで合気道強化指導」 2年間アカラで合気道指導をした。トルコ語の研修は受けていたが、バス、買い物等日常生活はどうか送ることが出来た。合気道指導の他に日本文化…お花、折り紙、お茶や柔道を地方都市で紹介した。一緒に派遣された仲間は10人、その内8人がアカラに赴任した。指導の様子やトルコ事情、個人旅行などご紹介します。
第66回 2月16日 (水) パラオ (永渕寛幸)		「人生行路 in Palau」 人生の旅には、居場所と出番が不可欠である。そのために、絶えず選択を繰り返している。どんな旅をし、どんな出番を作れるかは社会のニーズにも影響される。パラオ国務省で行政管理の指導を担当したSVが、ゆったりと生きる現地の人々との交流の中で経験した人生の旅路—パラオ編—を紹介したい。
第67回 3月16日 (水) チュニジア (小黒君枝)		「2年間の活動内容とその成果」 チュニジアで、服飾の指導を行った。当初は、プライドの高い同僚に、なかなか手法が認められず、受け入れようとする姿勢も見られませんでした。私自身の考えを明確に示した結果、徐々に理解が得られるようになり、最終的には感謝の言葉が聞かれました。